

平成 28 年度 第 1 回湯河原町総合教育会議会議録

日 時 平成 28 年 8 月 8 日（月）午後 1 時 00 分～2 時 02 分

場 所 教育センター201 会議室

出席者（委員）町長、副町長、教育長、早藤委員、石井委員、小松委員、貴田委員
（事務局）参事地域政策課長事務取扱、地域政策課副課長企画係長事務取扱
（教育委員会事務局）参事学校教育課長事務取扱、美術館長、学校教育課副課長、
社会教育課長、図書館長、学校教育課管理係長

1 開 会

2 町長あいさつ

皆様こんにちは。

大変お暑い中を、そして、本来の教育委員のお立場はさること、他のお立場でも大変慌ただしい夏をお過ごしの方の委員の皆様かと思えます。お忙しく、そして、お疲れのところを本日開催したところ、ご出席いただきまして、まずは御礼申し上げます。

このあと、案件に入るわけではありますが、今回、いくつか、この本会議で出る案件もありますが、いろいろな施設面での実質的な政策については、皆様方と情報を共有しながら進めたいと思っております。養護学校につきましては、これまでもたびたびお話をさせていただいております。また、3番目の中学校グラウンドについても、今後のJCHOさんとの関係、2番目の美術館整備につきましては、今後、湯河原と大変ゆかりがある、また、その状況が続いております平松礼二画伯の関係等もございまして、今後のいろいろな部分の美術館そのものの、施設の弱いところも含め、今後どうあるべきかという、このことをご報告をさせていただき、また、皆様方のご協力があればとそんな思いでございまして。

いずれにいたしましても、施設面が今回の主な案件になっておりますので、たくさんのご意見をいただき、かつ、皆様方にも情報を共有していただければ幸いという、こんな思いでございまして、しばらくおつきあいのほどよろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。

3 教育長あいさつ

皆さん、こんにちは。

今日は、平成 28 年度の第 1 回目の湯河原町総合教育会議の開催、ありがと

うございます。平成 27 年度におきましては、町長から湯河原町の教育に関します大綱が策定され、示されました。教育委員会といたしましても、この町長がお考えの教育施策の総合的な方向性につきまして、その思いを共有して、また連携して取り組んでいるところでございます。

そんな中で、今回は課題となっております 3 件の事項につきまして、ご協議いただければと考えております。よろしくお願いいたします。

4 案 件

(1) 県立小田原養護学校分教室について …資料 1

○資料 1 を説明 (学校教育課長)

○質疑

(早藤委員)

…10 番にあります、平成 27 年 7 月 6 日の協議した中で、2,000 m²を無償で借りたいと明記されているが、右側では 2,900 m²のうちの 2,000 m²となっているが、この 2,900 m²というのはどこからきたもので、こういうふうになったのですか。

(学校教育課長)

…赤枠で囲った部分横に少し空白があると思うが、その部分一帯が 2,900 m²で、赤枠で囲った部分が約 2,000 m²となる。区切りとしては、真っ直ぐ切るとそういう部分になるが、少し中に入った形で 2,000 m²を取るとこういう形になるというようなことでのお示しをさせていただいています。

(石井議員)

…当初と場所が変わって、現在の教育センターのところになっているが、教育センターはどうするのか。

(地域政策課長)

…教育センターは、建設に入る前にどちらかに移動する計画を考えています。

(副町長)

…今、教育委員会が入る施設については、内部で精査しているところですが、まず、第 1 段階は、体育館の入り口、少し広い場所であったり、プラネタリウム、実際に使っていないので、そこの角が、災害の拠点な建物、ここに町道中央 24 号線があるが、ここの道路を使って、JCHO 湯河原の約 6 m～7 m の道路を造る予定でいるので、そこの道路を中心にした形で、高さが約 4 m 位段差があるが、そこの地下を防災拠点の倉庫とし、今の体育館と同じ駐車場のレベルを 1 階として、1 階、2 階のどちらかに教育委

員会を入れようかと思っています。ただその計画につきましては、JCHOの着工が平成30年頃だということで、湯河原町側になるがその前面道路があり、それから向こうで擁壁をやるということで、それが、今、体育館の入り口の駐車場の高さまでやるということで、そうすると、この養護学校のここの建物をその道路のところに埋めて、工事費を安くする方法もあると。ですから、JCHOの方の関係で、ちょっと流動的な形になっているということで。来年早々になれば、はっきりとしたJCHOの回答も出てくるので、そうした場合に今言ったような場所、それか、壊した場所のちょうど2,900㎡のうちの2,000㎡で、約900㎡が出てくるが、そこに木造で建てるか、というような3つの方法を今、考えているが、今のところはそんな考え方です。

(町長)

…いずれにしても、この敷地内の中での移動ということにはなろうかと思っています。この敷地以外にということは、基本的には、現在、考え方としてはない。どこにどう移すかということについては今の説明のとおりです。

現実的に必然の話となったので、養護学校と同じ施設の中という検討も県側にもしてもらったりもしたが、なかなかうまい方法がなかったということで。

(早藤委員)

…今の露木副町長の話だと、3番目の案ということになると、この特別支援養護学校の車の搬入口がどこになるのか。この図面を見たときに、この学校の入り口が新崎川の方の道路から入るのか、現在の駐車場になっているグラウンド側から入るとしても入り口がない。その入り口を取るとなると、第3番目の案のところの建物の面積が小さくなる。その道路をもし、分校舎側、県に無償貸与するその部分もその面積に含まれた形になれば増えてくる。というふうに思うが、これから具体的な設計に絡めてわかるんでしょうが、具体的にここの場所にした以上、やはり入り口というのはある程度明記されるべきかと思うがその辺はどうなのか。

(副町長)

…確認上の道路は、町道中央25号線、向こう側の道路になるかと思う。これもJCHOの方の関係で、はじめは、この福祉センター、教育センターと駐車場の間に、6mの表示があるが、そこを町道にする予定でいたが、JCHO側が先ほど言ったように、町道中央24号線、体育館寄りの方に拡幅して道路を使いたいということで、この6mについては、町の管理用通路というような形で、駐車場に行くような道路にしようかなと考えていま

す。建築確認上の道路ではないが、建物は建つので、福祉センターの境界線があり、そこを6mの園内通路の直角に復員8mとして、大型バスも来るようなので、そこをそういった規格にしようかなと思っている。2,900㎡のうち2,000㎡プラス通路部分を借用するような形になります。町としても貸すような形になります。

(早藤委員)

…図面的にはそこに、8mの道路部分をプラスするというような形を造る。

(副町長)

…はい、そうです。

(町長)

…経緯を兼ねて、神奈川県の方もいよいよ来年度予算にそういった事業名が出てくるということのようで、その方向へ本格的に県も動き出すという予測でよろしいかと思えます。もちろんそれは予算がつかなければなんとも言えないが、それがかなり濃厚になってきましたので、この敷地の確保、面積の確保、位置の確保、こういったものを、いよいよ最終的に煮詰まってきたものを、本日、皆様に共有していただければということになりましたので、よろしく願いいたします。

(2) 「美術館整備計画について」 …資料2

○資料2を説明(美術館長)

○質疑

(早藤委員)

…4番目の新規事業について、非常に興味深いものがあり、平松画伯の方からこのような提案をされたということで、ありがたい話だと思う。現実に非常に著名であるだけでなく、湯河原の文化財産として、今後保つことができるのではないかと。やはりこういう芸術作品というのは、価値がだんだんに上がってくるというものが非常に多くあるし、そういう意味でも湯河原が竹内栖鳳画伯以来、美術そういうものに文化的に高いということを外にアピールするためにも、これを個人所有ではなく、公的ところに置くことが、芸術資料館的な意味でも美術館の価値を高めるのではないかと。子どもたちがアトリエの様子とか、画伯が実際に制作している様子やなにかを見ることができると、子どもたちの文化水準も上がるというか、そういう才能を花開く材料にもなるのではないかと思うので、ぜひ、これを実現させていただくようお願いしたい。

(教育長)

…先生とは、最近、関わりが深くなっておりまして、小学校の卒業講演、社会人向けには町民大学でのご講演も4回目も受けていただけるような、湯河原に対しての愛着というんでしょうか、出ていらっしゃる。その中で、こういうご提案をいただきまして、非常にありがたいなと思います。

(町長)

…加えて、ご年齢は75歳。委員の皆様も会われたことがあるかと思いますが、非常に人間的にも大先輩で、フランクな方といますか、お話ししても非常に飾らない方です。ただ、アトリエでご自身の活動をしている姿を少しさらけ出すような形で、仮称ですけれども、湯河原八景という湯河原を題材にしたものを今後制作していきたいというこの思いは、直接お話を聞かせていただくと、決して何かお世辞的な話ではなくて、ご本人の気持ちというのを強く感じています。ご自身の作品が数多くあるものが、国外も含めてもそうでしょうけれども国内に分散をしまっているものを1つの場所に集約させていきたいという思いがあり、その候補地として湯河原という、このようなことも奥様と同伴の中でお話をいただいておりますので、その部分が先行して出てしまうと誤解を招くといけませんので、この中で少し触れさせていただく程度がいいのかなと思っております。いずれにいたしましても、これまで問題となった雨漏りそのものや、そういったものの体制を整えながらそういった状況に対応して、最終的には、湯河原の文化財として、また、歴史として残せば次の世代にとっても悪い話ではないでしょうし、教育面でも観光面でもいろいろな部分でいいのかなと、そんな期待は委員と同じような感覚で私も持っておりますので。これは、丁寧に大切にことを進めていくべきかと私は思っています。ただ、ハード面の整備につきましては、お金のかかることでありますので、皆様と早めにこの会議の中で意思疎通をしていくということがひとつの決まりとしていいのかなと、今日はこれだけの資料しか出せませんが、早くお伝えした方がいいとそういった判断で、今日、ご説明をさせていただいたところです。

鎌倉は津波の心配が湯河原よりリスクが高いということをご心配されて、ご自宅の海拔を考えられているとそんなお話も伺いました。

この件につきましては、この後もいろいろありますけれども、美術館につきましてはこのような方向で、今後も共有しながら進めさせていただきたいと思っております。ご理解とご協力をいただければと思います。

(石井委員)

…町長がおっしゃたように、お金のかかることなので簡単にはいかないでしょうけれども、ぜひよろしく願いいたします。

(町長)

…平成10年にスタートした施設でありますけれども、建物そのものも時間もかなり経っているものでありますので、上手に手を入れながら、子守をしていくことは大切なのかなと思っております。

今後、平松先生との関係で、もう少し詳しいお話ができる時期が来れば、皆さんと情報を共有していければと思っております。

(3) 湯河原中学校グラウンドについて …資料3

○資料3を説明(学校教育課副課長)

○質疑

(石井委員)

…町民グラウンドがなくなりますよね。中学校は納得しているとは思いますが、今までと同じように使えるわけではないので、学校施設のほかに、町民が利用できるようなそれが整備できればよいと思うのですが。ゆめ公園で何かやれと言われても簡単にはできませんので。その辺を整備して、町民全体が使えるような形ができるのかどうか、町民グラウンドは町民が使えるので、残していただきたい気持ちもありますが、ここは、町民がみんなで使えるようなそういう施設にして、中学校のグラウンドでありながら、多目的広場という言い方は変ですが、中学校のグラウンドでありながら、そういった使い方をさせていただければありがたいなと私は思います。

(教育長)

…学校としてはそういう形がいいんでしょうけれども、そうはいつでもお金がかかることなので。ただ、教育委員会の中でもそういった使いやすい形に施設整備していければとは思っています。

(町長)

…2つのグラウンドを自由に使えていたという極めてまれなケース。これが平常的になってくると、ここがなくなるということは苦情の種になってくるとい状況もあります。本来の学校グラウンドとして、1つの学校に1つのグラウンド、これが一般的な環境に戻るといようなそういう状況にあるわけです。そういった中で、多少の整備をしておかないと、トレーニングもできないということ。プールが空けば、テニスコートがそこに来る

のではないかということ、あの空き地ができた瞬間に私も瞬間的に思ったこともありますけど、いずれにしてもかなりの費用がかかるのかなということにはなりますが、この辺の整備をしていかなければいけないということです。現場的にはどうなのですか。優先順位というのはある程度は整備できているのですか。

(学校教育課長)

…あくまでも、学校の要望があってということですが、学校としては、テニスコートをプール側に移すと2面になりますけれども、アーチェリーにつきましては今年度いっぱい廃止となりますので、その部分で陸上部については、そこで基礎トレーニングやスタートダッシュができたりと、そういうことができるのがいいのかなと学校としては希望が膨らんでいるところではございますけれども、通常では、1校1グラウンドとなりますので、優先順位はまだ打ち合わせてございませんが、どれができるのかということは、学校とフィールドバックさせながら調整を図っていきたいというような考えでございます。

(教育長)

…教育委員会の中では、そのなかでやることはどれかという順位付けはまだしていない状況です。

(副町長)

…これは、学校の要望を今話しているのか、それとも構想を話しているのか、基本計画を話しているのか、今どの段階でしょうか。

(教育長)

…学校の要望が出て、先ほど石井委員が言われたように、教育委員会としては、この方向で進めたいということです。ですが、お金がかかりますので、この場でお話をさせていただきました。

(早藤委員)

…確かに学校側の要望なんですけれども、湯河原町に一つしかない中学校、この施設を充実させることで、子どもたちにもうちの学校すごいよと思わせるのが、それこそ50年近く前、私が湯河原中学校に入ったとき、湯河原中学校の体育館が県下一すばらしい体育館だということで、ほかの中学校から湯中の体育館で試合をするのが楽しみで来るという話を聞いて、すごく誇り高かったんですね。そういうものもあると思うんですね。やっぱり湯河原は施設もきちっとしているよ。成績が良ければもっといいんですけども、そういう意味でもできるだけ理想的な学校を作る。確かに50年前は中学校も新しかったから施設を見に来る見学者も非常に多かったと思

ます。たとえ古くなっても教育していく中で、施設としても理想的なものをできるだけ作っていただければ子どもたちにとっても少子化であるといいながらも逆にこんないいところで子どもを育てたいなという気持ちで子作りが増えるようなそういうまちづくりをしていくためにも施設の充実というのは必要かと思うので、ぜひ、優先順位をどんどんあげて、町の中で進めていただけたらなと私は思っています。

もう1点、先ほど和弓の弓道場の話が提案としてありまして、確かにアーチェリー場のところをというものも理屈はわかるんですけども、やはり学校施設の中にそれが位置的にも公道から遠い場所になりますし、物理的に建築基準法上可能かどうか。この塩川のかなり横幅がありますので、この上に簡易のふたをして、ここにフェンスをしっかり作ってしまえば、ここに弓道場って作れないですか。まったくの素人の考えなんですけれども。建物は作れないと思うので、建物ではなくて、あくまでも弓道をするそういうものってどうなんでしょうかね。

(副町長)

…可能だと思います。町が管理している水路ですから、土木課の管理になりますので、全体的な管理は町長ですけども、この水路については、県とか国は関係ございません。ただその水路の占用条件をどういう形にするかという議会側との調整も必要かと思います。あくまで仮設で押し通すのか、本設だと占用は難しいので、仮設でということ。ただ、議会側の了解、地元の了解が必要になってくるかと思います。

(早藤委員)

…私の勝手な考えでは、ここに行くといつももったいないなと思うんですよね。かなりの面積が可能でしたら、そういうことも考えていただければと思います。

(町長)

…これはあくまで町管理だからということですよ。ほかの行政だとなかなか難しい話ですよ。

(教育長)

…今、プールの横に体協の弓道場の仮設ができていますんですけども、それをこちらに移設することも可能ということですかね。

(副町長)

…あとは、土木課長がどういう判断をするかですね。はっきり言って、やってできないことはないです。

(小松委員)

…ちょっと細かい内容になってしまうかもしれませんが、うちの息子がサッカーをやっている、練習場に恵まれていたということで、今年も県西で2校しか行けない県大会に出場します。テニスコートがこちらに移動し、野球も移動すると野球だとマウンドがあり、サッカーの立場からするとけがの原因になる。

(町長)

…一つのところを共有するにしても野球用のグラウンドの配置の仕方、それを回避してもらえれば助かるという、こういうお話ですね。その辺は教育委員会で見極めて意識してやってください。

当面フェンスを先にやるという話があったと思うがそれはいいんですか。ボールが外に出してしまうと一時あったが。

(学校教育課長)

…ここで部分的な補修はしましたけれども、ここをやる時に合わせてやります。現状はいいんですけれども。

(町長)

…いろいろな関係で、今までどちらかというグラウンド確保には移動はあったけれども非常に恵まれていた環境がちょっと窮屈になるので、摩擦が生じるのは必然なことなのですが、一般的な学校よりはレベルが下ということはありませんので、ご理解をいただければと思います。

(3) その他

(町長)

…1点、まだ、教育長にも副町長にも話をしていないのですが、費用がかかる話ではないのですが、実は今朝の話なのですが、湯河原中学校は学校が一つあって、今、高校生でもなんでも卒業旅行とか学校行事の中でやるのは難しいと思うのですが、実は、旅館側からのアイデアで、湯河原の中学生に、終業式から卒業式の間の時間、その間あたりをターゲットにして、学校教育の中でやるのは難しいので、希望者だけでもいいので、湯河原に1泊、泊まってもらおうというそういうことができないかと。2回目の修学旅行じゃないのですけれども、旅館側も協力したいと言っている。その目的は何かというと、湯河原に住んでいて、湯河原の旅館に泊まったことがある経験って大人になってもなかなかないので、中学生がそういった機会にもう一回修学旅行的な食べて騒いでそれで足りると思うのですが、その人たちが、湯河原の旅館はこういうものだとか、湯河原というのはこ

ういう観光業で成り立っているという部分の一部でも、高校へ進んだり、その後の大人になっていく中でそういうことを肌で感じてもらった方が将来、役に立つのかなというようなことです。私もそこは賛成な思いがあるので、これはまだ学校や教育長とも話をしていない、まさに今朝の話なので、下地ができていない中でこのような話をするのもなんなのですけども。卒業後であれば、多少保護者のご理解が得られれば、学校の方もやりやすいのかなと思います。卒業前だとどうしても学校長が判断に苦しむ話になってしまうと思うのですが、どうなるかまだわかりませんが、できれば来年の3月そんなことを試験的にやってみたいという申し出も出てきていますので、これは今、意見をもらうというよりもちょっとお伝えをさせていただいたところです。3年生全員泊まっても180人ぐらいですか。来年以降は、130～150くらいになってしまうので、そんなに難しい話ではないと思うのですが、1校しかないということでやりやすいのかなと。

(教育長)

…あとは、負担金の問題ですね。

(町長)

…それは、旅館側がもつと言っていますので。ただ、それが独り歩きしてしまうと、タダだとみんな来てしまうといけないので、もし、これが継続的になった時に負担をどうするかも含めて、その位置づけとしては、町側としてはおもてなしの一環とかなにか事業の位置づけをして旅館側と負担をシェアする等していけば継続性が保てるのかと思います。来年については旅館側ががんばってやりたいという考え方もありますので。しかし、タダだから泊まるというのは話の入り口として違うので、湯河原の産業を義務教育課程を終わるときに肌で感じてもらうという、これは悪いことではないのかなという気がしますので、このような話をしました。

(教育長)

…体験学習とかはやっていますよね。

(早藤委員)

…瞬間的に思ったのが、自分がその立場だと考えたら、たぶん羽目を外してしまうんじゃないかなと。羽目を外すのが半端なく外してしまう。要するに受験も関係ない、卒業したから怒られる先生もいない、そういう時に、共学だから男女一緒にいるわけじゃないですか。1晩そこにいるということは、酒もしかり、たばこもしかりなんですが、修学旅行はかなり先生の目があるから、まだ、在学中だし、もしなにかあると高校進学に影響して

くるじゃないですか。それがすべてないときに、リフレッシュできるんだけれども、しすぎてしまうという心配もあり、そこが危惧される。

(町長)

…そこは極めて難しい話だと思います。ただ、学校関係者の方には申し訳ないのですが、先生が見ているから悪さをするという心理もあると思います。押さえつけると心理が違う方向へ働くと。人間は見てはいけないといわれると見たがり、食べてはダメと言われると食べたがる。ある程度そこは賭けですよ。先生の協力も多少いただかないといけないと思うのですが、社会に出るということはどういうことかってことを含めて、違う人たちがマネージメントしたときに、中学3年生がどこまでいうことを聞いて行儀よく過ごすかという、これは結構チャレンジだと思います。でも、多少そういう人間ってというのは少しの時間はそういう時間を与えてあげることがいいのかなと私はそんな気がしています。ちょっと1回チャレンジしてみるのもいいのかなという気がしています。

(早藤委員)

…箱根が洋食の食べ方を卒業の時にやるという、そういう基本的な知識をと、そういうものが、もし旅館でできるなら。小学生に入浴体験をさせていただいて、それがいい経験になっているという話をよく聞きますし、中学生に入浴体験は必要ないでしょうけれども、食事のマナー、和食のマナーとか、勉強ではないんですけども、意外に親も教えない、そのまま大人になっちゃって、恥ずかしい思いをすることがあるから、一度体験しておくだけで違うので、そういうものも含めて、非常に親も安心してお願いしたいかなという思いもあると思います。

(石井委員)

…中学生ぐらいは外の人に湯河原ってどんなところと聞かれても、自分たちの住んでいる湯河原を知らないの、湯河原を知るという意味でもいいと思う。羽目は外すかもしれないが、1回は体験してみるのもいいのではないかと思う。

(町長)

…将来、大学に進学して社会人になって、湯河原を離れて、湯河原のセールスをしてくれるようなそんな人が一人でも二人でも出てくれば、これは見るより、話を聞くより体験した方が早いですから、期待としてはそんなことも含めて、来年の3月に可能であるならばチャレンジをしていきたいと思います。

(小松委員)

…費用負担がやはり問題になってきて、子どもが小学生の時に卒業対策委員というのをやっていたけれども、みんなで最後にホテルを借りてお別れ会をやるんですが、親も子も2,000円から2,500円くらいの負担でやるんですが、やはり、経済的な理由で参加できないというお宅もあるんですね。担任の先生によっては、準要保護で教材費で請求してくださって、それで負担してくださるという配慮をしてくださる先生もいらしたんですが、高校入学は結構費用がかかるので、参加したい希望者がみんな参加できるようなことになればいいのかなと思います。

(町長)

…いきなりは難しいと思うので、観光地としての湯河原の財政面での観光が基幹産業だということを子どもたちに知ってもらうという機会が一番いいのかなということなので、それが浸透するかどうかはわかりませんが、大人になってからわかるような、そういう機会になれば良いと思います。観光が重要だ、重要だと言っても、体験することで、これが町の税金で入ってきて、そして学校も行ったんだとかそういうことを身をもって知ってもらうことが極めて重要なところだと思うので。中学の時に町のお金の循環みたいなものがわかってくれると良いのではないかという期待もある。いずれ正式にお伝えすることができる状況になれば良いと思っているので、よろしくお願いします。

5 閉 会